

国際地域文化 調査成果発表会

PROGRAM

開会のあいさつ	13:00
19世紀における東アジアの開港	13:05
言語としての手話	13:45
地域文化財の再評価 —砂丘・古墳・吉田コレクション—	14:25
————— 休 憩 —————	
木の文化を探る—遺跡出土木製品からみた日本文化 — ..	15:15
鳥取駅周辺にみられる言語景観	15:55

2025年1月26日(日)

開場 12:30 開会 13:00

鳥取大学 地域学部棟5階 5160講義室

入場無料・来聴歓迎



1

13:05～

19世紀における東アジアの開港

東アジア班の2024年度のテーマは「19世紀における東アジアの開港」であり、まず文献調査を行い、神戸（日本）・台湾（清朝）・仁川とソウル（朝鮮王朝）での現地調査を行いました。それぞれの地域における開港の様子と開港がもたらした変化を個別にまとめると同時に東アジア地域としての変動にも注目して発表します。



台湾調査で訪れた淡江中学での集合写真

2

13:45～

言語としての手話

私たちは「言語としての手話」をテーマに、基礎的な知識を学ぶところから始め、外部講師の方々から日本手話やアメリカ手話について学んだ他、鳥取大学や鳥取県の具体的な取り組みを伺いました。また同志社大学を訪問したり手話パフォーマンス甲子園では多様なパフォーマンスを鑑賞するなど、様々な活動を通して手話に対する学びを深めました。これらの活動を踏まえ、手話の言語としての特徴に焦点を当てて調べた内容を報告します。



手話で“I love you”

3

14:25～

地域文化財の再評価—砂丘・古墳・吉田コレクション—

私たちの身近にある文化財について、新たな価値や魅力の再発見につながる活動を行いました。鳥取砂丘では、オアシス周辺で出土した縄文土器を回収し、その整理を行いました。また、前年度に引き続き大学に隣接する前方後円墳・大熊段1号墳の発掘調査を行って、理解を深めました。さらに、山陰を代表する民藝運動家・吉田璋也が集めた陶磁器コレクション（鳥取民藝美術館所蔵）の目録作成事業に協力しました。およそ2900点ある陶磁器のうち、中井窯、岩井窯、出西窯の約300点について調査を行いました。これらの調査内容を報告します。



鳥取民藝美術館における目録作成作業

4

15:15～

木の文化を探る—遺跡出土木製品からみた日本文化

日本列島は、温暖湿潤な気候により、森林資源に恵まれ、古くから生活の様々なものに木が使われてきており、日本文化の特徴の一つになっています。木材は、木の種類によって硬さや重さが異なり、用途の違いによって使われている木材が異なります。地域や時代によってもそれは変化するため、木の文化には地域の独自性があります。今年度は青谷上寺地遺跡出土の近世の資料を基に、その一端を明らかにしていきます。



遺跡出土木材の調査風景

5

15:55～

鳥取駅周辺にみられる言語景観

看板・掲示板・ポスターなどに書かれている文字言語のことを「言語景観」と呼びますが、今年度は、鳥取大学構内や鳥取駅周辺にみられる言語景観を対象に、文字・表記・表現のバリエーションや表現意図を明らかにすることを目的に活動しています。発表では、鳥取駅周辺にみられる言語景観を対象に、3つのグループがそれぞれ設定したテーマに基づき行ったフィールドワークの結果について分析したことや考察したことを報告します。



鳥取駅周辺でのフィールドワーク